

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【音楽科】

1. 対象 特別支援学校 高等部2年

<身体の動き>

- ・側臥位で過ごしている。肩関節から先を動かすことができる。
- ・目と手の協応は、目と手はまだ同調しにくい。手指が偶然に触れたものへ視線を向けていることが中心ではあるが、視線を先に対象に向けてから手を対象の方に伸ばすような様子も増えてきている。どちらもまだ瞬間的に目が使われ注視が難しい段階である。

<コミュニケーション>

- ・言葉を始めとした象徴によるやりとりはまだ難しい。
- ・他者に向けて、自ら意図的に要求や拒否を示すことはないが、他者からの働きかけや置かれている環境に不安があると、そわそわ身体を動かしたり、声を出したりすることがある。

2. 単元名 「いろいろな音を楽しもう！」（全15時間）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	・楽器の音色(楽器特有の感じ響き強さなど)の感じに気付くこと。 (音楽A表現1段階(ウ)④)
思考力, 判断力, 表現力等	・楽器の音を聞いたり自分で鳴らしたりして、感じたことを表情、身体の動きで表すことができる。(音楽A表現1段階(ア)) 音や音楽を聴いて自分なりに表そうとする力を育てたい。
学びに向かう力, 人間性等	・教師の働きかけに応じようと身体の動きを合わせる。 ・楽器の音に気付き注意を向け、続けて自ら鳴らそうと楽器に手を伸ばしたり何度も指で鳴らしたりしようにすることができる。

4. 本時の目標

<知識及び技能>

- ・楽器の音に注意を向け(視線)気付き、続けて教師の支援(肘の支え)をきっかけに、自ら楽器に手を伸ばし楽器に触れようとする事ができる。
(音楽A表現1段階(ウ)④) 音楽の基礎である。楽器の音に気付きことでその後の表現につながる。
(書籍：障害が重い子どもの発達理解ガイドから スコア2 外界の探索と注意の焦点化、自発運動)

<思考・判断・表現>

- ・自らの身体で働きかけたことで音が聞こえることに気付くことができる。(感覚と運動の高次化理論から)
- ・楽器の音色(楽器特有の感じ響き強さなど)の違いに気付き、感じたことを表情、身体の動きで表すことができる。(音楽A表現1段階(ア)) 音や音楽を聴いて自分なりに表そうとする力を育てたい。

<学びに向かう力>

- ・教師の働きかけに合わせようとしている。
- ・楽器の音に気付き注意を向け、続けて自ら鳴らそうと楽器に手を伸ばしたり何度も指で鳴らしたりしようにすることができる。

5. 授業展開【**本時**・単元】

解決したい課題や問い

音・楽器への興味から

- ・あれ(楽器)に触ってみたい。音を鳴らしてみたい！
- ・何の音だろう？どこから音がするのだろうか？

考えるための材料

【音楽の見方・考え方】音楽を形作っている要素を使って音や音楽を捉える視点

- ・この授業では、音色を中心に着目する。(見方)

- ・曲や演奏の良さに気付く(考え方)

演奏の前段階である、楽器を鳴らす楽しさに気付くことをねらいたい。

【考えるための材料】

- ・指先の動きで音が鳴る楽器を使用

本児は日ごろ指先を動かし、触れた物の感触を確かめたり、金属に触れた時には指を動かしたことで鳴る音を聴いたりしている。時には楽しんでいる様子も見られる。そのため、本児の普段聴きなじみのない新しい楽器(ハープ、三味線など)の感触と音色を経験することで思考を働かせ主体的に楽器に関われるようにしたい。

- ・音が聞こえる方向や距離の工夫

本児は4メートル程度離れたところからの呼名に気付き、ソワソワした感じで手や顔を動かすことがある。音についても気付くと動きを止めることや表情から音に注意を向けていることが見て取れる。そのため、4メートル程度の距離で視野の90度の範囲で様々な方向と音を鳴らすことで、本児が音に気付き方向を感じるなど思考する様子が期待できる。

想定される活動

- ・教師と一緒に様々な楽器に働き掛けることを通して、楽器特有の響き強さなどの感じに気付く。

- ・教師が様々な方向・距離から音を鳴らすことによって、「どこから音がするのだろう」と音の方向を感じる。

対話と思考(対話を通した協働的な問題解決のプロセス)

教師と生徒の一对一のやりとりで想定する。

生徒は言葉のやりとりが難しいため教師が気持ちを汲み代弁する。

教師：楽器を鳴らす。

生徒：音に気付き手を伸ばしたり視線を向けたりして探索する。(どこから音がするんだろう)

教師：生徒の視界に入る位置で楽器を鳴らす。注意を向けているか視線を向けようとしているか見取る。

教師：自分から手が出ない場合は教師が手に触れてきっかけを作る。「一緒に触ってみようか。」

生徒：(少し怖いけど先生と一緒に触ってみようかな)

生徒：音が出る。(この音何だろう？なんだか楽しい)(もっと鳴らしたい)(音を聞きたい)

表情が和らいだり笑顔になる。身体に力が入る。

教師：「この音、楽しいよね。」「もっと鳴らしてみようか。」

教師：少し音を出して手を引っ込めてしまったら、反射の場合も考え自分からもう一度手を出すか待つ。

待っても手が出なかったら再度教師と一緒に触ってみる。

学習の成果(予想される生徒のあらわれ)

「楽器はどこかな？」

「ここかな？」

「うん。これだ、触ってみよう」

「あ、鳴ったよ」

「音が止まっちゃった、どうしよう」

「今度は鳴った！もっと鳴らしたい！」